

# 呼びかけ表現を好む韓国人、呼びかけ表現を避ける日本人：コンテキスト化の合図という観点から

著者名(日)	尹 秀美
雑誌名	韓国語學年報
巻	4
ページ	21-31
発行年	2008-03-25
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1092/00000855/">http://id.nii.ac.jp/1092/00000855/</a>

## 呼びかけ表現を好む韓国人、呼びかけ表現を避ける日本人 —— コンテキスト化の合図という観点から ——

尹 秀美 (ユン スウミ)

金沢大学大学院人間社会環境研究科博士前期課程

### 1. 序論

#### 1.1 問題提起

日本人の夫婦の多くは、お互いをそれぞれ「お母さん」「お父さん」という親族名称で呼ぶ。たとえ夫婦に子どもがいない場合であってもそのように呼ぶことがある。ところが、韓国人夫妻の場合、日本と同じ親族名称でお互いを呼び合うことはめったにない。そのかわりに、韓国人の場合、とりわけ若い妻は、夫を「お兄さん」という意味を持つ「오빠」という別の親族名称を使って呼ぶことが多い。これは日本の夫婦では見られない現象である(洪 2007, 滝浦 2007, 尹 2007)。一般に日本語と韓国語は類似の親族名称体系をもっていると言われるが、夫婦が使う呼びかけ表現は両言語でかなり異なっていることがわかる(한 2006)。夫婦間で使われる呼びかけ表現の量と種類についていえば、韓国語は日本語より豊富であるような印象を受ける。

実際に日本語と韓国語のTVドラマの会話を比較してみると、呼びかけ表現の使用に違いがあることに気づく。韓国ドラマの会話には多様な呼びかけ表現が頻出するが、日本のそれにはあまり見られない。なぜ韓国語では呼びかけ表現が多様で、なおかつ出現頻度も高いのだろうか。それは、呼びかけ表現が、ある種のメタコミュニケーション的機能をもっているからだと推測することができる。すなわち、呼びかけ表現は、何らかの形で、話し手が自己の発言の意図を聞き手に示唆する手段、つまり「コンテキスト化の合図(contextualization cues)」(Gumperz 1982)として使われていると仮定できる。本研究では、映画やTVドラマにおける日本人夫婦と韓国人夫婦の会話を通じてこの仮説を検証する。いろいろな人間関係がある中で、とくに夫婦間の会話に着目した理由は、たとえば、父と息子といったような、社会的に非対称な関係においては、ある程度決まった呼びかけ表現が相互に用いられる傾向があり、その使用が制約されている。ところが、夫婦のように社会的に対称関係にある人物間では、会話場面によってかなり自由度の高いさまざまな表現でお互いを呼び合うことができるからである。

#### 1.2 先行研究

呼称表現(Address Terms)には、発話内で言及する時の言及表現(Reference)と、会話の相手に対して直接呼びかける時の呼びかけ表現

(Vocative)の二種類が区別できる。従来の呼称表現に関する研究では、たいていの場合、言及表現に焦点があてられ、しかもその分類が中心となっていた。この領域に関する代表的な研究と見なされる Braun (1988) は呼称表現を①代名詞による呼び方 (Pronouns of Address)、②動詞形に表わされた呼び方 (Verb Forms of Address)、③名詞による呼び方 (Nouns of Address)の三種類に分類して、夫婦間に限らず、いろいろな人間関係での呼びかけ表現を様々な言語文化圏で調査・分類している。また、今村(1996)は Braun(1988)の分類に基づいて日本語と英語を比較しているが、そのような分類に基づいた単純な種類の比較は、そもそも日本語と英語はその社会的背景も異なれば、言語システム自体も違うので、どのような意味を持つのか疑われる。

数少ない呼びかけ表現に関する研究のうち、日本と韓国の夫婦間の呼びかけ表現を扱った研究としては、たとえば、米田 (1986)・이 (1987)・韓 (1994)・韓 (1996)・이 (1998)・홍 (1999) が挙げられる。これらのほとんどは、自分の子どもなど、他者の存在の有無という状況の変化に着目し、夫婦間の呼びかけ表現がどう変わるかを調べている。もちろん、当該場面における他者の存在の有無によって、呼びかけ表現に変化があることはありうるだろう。しかし、夫婦は二人きりの場合であっても常に同じ呼びかけ表現を用いるとは限らない。その点に着目して、米田 (1986) は口論という場面での夫婦の呼びかけ表現の種類について調べてはいる。しかしながら、この研究は、子供の有無やコンフリクト場面に応じてどのような表現が選択されるのかといった問題設定をしているので、状況や場面と呼びかけ表現とを静的・固定的に捉えようとする傾向がある。

果たして、このように場面と呼びかけ表現を静的に捉えるだけでいいのだろうか。例えば、呼びかけ表現はもっと動的に使用されているのではなかろうか。また、先ほどの口論場面为例にとれば、感情の激しさによって異なる呼びかけ表現を微妙に使い分け変化させているのではないだろうか。このような観点からの研究は、これまでほとんどなされてきていないようだ。とりわけ、同一の言語を使い、同一の文化的背景を持つ同一の人間関係にある人同士が、呼びかけ表現を使い分けるのはどのような意図によるものかについては、あまり着目されていない。

呼びかけ表現が会話相手に対して注意を喚起する機能を持っていることはよく知られている。しかし、この呼びかけ表現は会話の進行中など、対話者を特定する必要がない場合にも多く用いられる。そして、同一関係にある二人であっても、会話の場面によってさまざまな呼びかけ表現が用いられることがある。本研究は、呼びかけ表現が話し手の意図をメタコミュニケーション的に聞き手に伝達する手段となっているという上記の仮説を検証するためにいくつかの会話の調査を実施した。以下はその報告である。

## 2. 資料と方法

日本と韓国の夫婦間の呼びかけ表現について、その出現頻度とバリエーションの差異を確かめるために、まず(1) 夫婦が主人公であるハリウッド映画「*Fun with Dick & Jane*」(2005) の日本語版と韓国語版の字幕を調べた。そして、英語とは別に、(2) オリジナルの日本映画「*明日の記憶*」(2007) と韓国映画「*선물 라스트プレゼント*」(2005) の夫婦間の呼びかけ表現を、それぞれ韓国語と日本語に訳された時の翻訳率を比較した。この(1)と(2)の調査は、本来なら、発話された呼びかけ表現同士を比較しなければならないわけだが、入手できたDVDには吹き替え版がなく、字幕による翻訳となっていた。そのため、本稿では便宜的に字幕による呼びかけ表現を比較せざるをえなかった。最後に、翻訳という条件を排除し、より客観的な呼びかけ表現の出現頻度とバリエーションを明らかにするために、(3) 日本のTVドラマ「*今週、妻が浮気します*」(2007) と韓国のTVドラマ「*투명인간 최장수* 透明人間チェ・ジャンス」(2006) のセリフを分析した。

## 3. 結果

### 3.1 ハリウッド映画の日本語と韓国語の字幕訳文の比較

日本と韓国の夫婦呼称のバリエーションと使用頻度を調べるために、ハリウッド映画「*Fun with Dick & Jane*」(2005) の中で主人公夫婦が使った呼びかけ表現の日本語字幕と韓国語字幕を調査した。その結果は、<表1>のようになった。「頻度」とは、英語の場合は発話された呼びかけ表現、日本語と韓国語の場合は字幕の中に現われた呼びかけ表現の出現回数である。「翻訳率」とは、英語で発話された呼びかけ表現の出現回数を100%にした時の日本語と韓国語の字幕での翻訳割合のことである。最後の「種類」は呼びかけ表現のバリエーションの数である。

言語	夫 → 妻			妻 → 夫		
	英語	日本語	韓国語	英語	日本語	韓国語
頻度 (回)	33	6	20	53	6	34
翻訳率 (%)	—	18.2	60.6	—	11.3	64.2
種類 (個)	6	4	3	10	2	4

<表1> 映画「*Fun with Dick & Jane*」(2005) において夫婦間の呼びかけ表現の日本語字幕と韓国語字幕について

<表1>を見てまず気づくのは、日本語の翻訳率の低さである。夫が妻を呼ぶときは18.2%、妻が夫を呼ぶときは11.3%と、双方ともに極めて少な

いということだ。また、韓国語の翻訳率と比較してみると、夫が妻を呼ぶときの韓国語の翻訳率は 60.6% で、韓国語のほう が 3 倍以上高く、妻が夫を呼ぶ場合も韓国語は 64.2% で韓国語のほう が 5 倍以上高い。

一方、呼びかけ表現の種類に関しては、妻が夫を呼ぶとき日本語は 2 種類、韓国語は 4 種類で、韓国語のほう が 2 倍多いが、夫が妻を呼ぶときは日本語が 4 種類と韓国語が 3 種類で日本語のほう が 1 種類多い。

### 3.2 日本の映画の韓国語訳字幕と韓国の映画の日本語訳字幕

日本語のオリジナル映画と韓国語のそれが、それぞれ韓国語と日本語に翻訳される際の、呼びかけ表現の翻訳率を調べるために、日本の映画「明日の記憶」(2007) と韓国の映画「선물 라스트プレゼント」(2005) に登場する夫婦の呼びかけ表現を分析した。〈表 2〉と〈表 3〉はその結果である。

言語	夫 → 妻		妻 → 夫	
	日本語	韓国語	日本語	韓国語
頻度 (回)	3	4	35	21
翻訳率 (%)	—	133.3	—	60.0
種類 (個)	1	2	4	3

〈表 2〉日本の映画「明日の記憶」(2007) において夫婦間の呼びかけ表現の日本語の音声 (セリフ) と韓国語の字幕について

言語	夫 → 妻		妻 → 夫	
	韓国語	日本語	韓国語	日本語
頻度 (回)	21	6	21	5
翻訳率 (%)	—	28.6	—	23.8
種類 (個)	4	2	4	2

〈表 3〉韓国の映画「선물 라스트プレゼント」(2005) において夫婦間の呼びかけ表現の韓国語音声 (セリフ) と日本語の字幕について

〈表 2〉と〈表 3〉を比べてみると、まず明確な差異が認められるところは、日本の映画「明日の記憶」(2007) で夫が妻を呼ぶのは全部で 3 回だが、それが韓国語に字幕化されたときは 4 回に増えていることである。韓国の映画「선물 라스트プレゼント」(2005) で夫が妻を 21 回呼んでいるのに対し、日本語の字幕では 6 回しか翻訳されていない。妻が夫を呼ぶ場合も日本の映画の音声に対して 60% の字幕翻訳率を示した韓国語に比べ、韓国の映画の日本語字幕翻訳率は 23.8% に過ぎない。したがって、第 3 言語 (英語) の音声を字幕化するときだけではなく、日本の映画の韓国語字幕と韓国の映画

の日本語字幕を比べてみても、夫婦の呼びかけ表現において韓国語より日本語のほうが字幕への翻訳がよく省略されることが分かる。

### 3.3 日本のドラマと韓国のドラマ

日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現の使用頻度と種類をより客観的に確かめるために、日本のドラマ「今週、妻が浮気します」(2007)と韓国のドラマ「투명인간 최장수 透明人間チェ・ジャンス」(2006)の中で主人公夫妻がお互い使った呼びかけ表現を調べた。それを通してさらに日本と韓国の夫婦の呼びかけ表現について調べた。日本語でもなく韓国語でもない言語で制作された映画で音声が外国語の字幕になる時と違って、内容の異なる二つのドラマを客観的に比べるのは難しい。しかしながら、その中でも内容の似かよったものを選んだ。日韓両ドラマとも、夫婦が主人公でその夫婦を中心に話が展開される。主人公夫婦は夫・妻ともに職業を持っていて、子供は幼稚園児(日本)と小学生(低学年、韓国)なので、ほぼ同じ年代であるといっている。

両ドラマの総放送時間についても差がある。「今週、妻が浮気します」(2007)が全11話(1話約1時間)、「투명인간 최장수 透明人間チェ・ジャンス」(2006)が全20話(1話約1時間)で、後者のほうが2倍多い。しかし夫婦の会話中の全てのターンを数え、ターンの数に対して使われた呼びかけ表現の頻度数を調べることによってある程度の傾向が分かると思われる。

<表4>は両ドラマを比べたものであるが、夫・妻ともに韓国のドラマのほうが全てのターンに対して使われる呼びかけ表現の使用率がかなり高いことが分かる。まず、夫が妻に対して使った呼びかけ表現の使用率は日本が12.6%、韓国が45.9%で、4倍近く韓国のほうが高い。また妻はその差がもっとはっきりしていて、日本が11.7%である反面、韓国は60.1%で、6倍近く韓国のほうの使用率が高いことが分かる。

	「今週、妻が浮気します」(日本)		「투명인간 최장수 透明人間チェ・ジャンス」(韓国)	
	夫 → 妻	妻 → 夫	夫 → 妻	妻 → 夫
ターン(回)	214	205	503	491
頻度(回)	27	24	231	295
使用率(%)	12.6	11.7	45.9	60.1
種類(個)	4	3	13	18

<表4> ドラマから見る日本と韓国の夫婦間呼びかけ表現の使用率と種類

一方、呼びかけ表現の種類に関しては日本の「今週、妻が浮気します」(2007)では、妻は夫を3種類の呼びかけ表現を使って呼んでいる。一番多いのは「あなた」(13回)で、次は「パパ」(7回)、「ねえ」(4回)の順である。夫の妻に対する呼びかけ表現は4種類で、最も多いのは名前の「陶子」(17回)、続いて「お前」(7回)、「おい」(2回)、「なあ」(1回)の順である。

韓国の「투명인간 최장수 透明人間チェ・ジャンス」(2006)では、夫は妻を13種類の表現で呼んでいるが、一番多いのは名前「소영」に「-아」<sup>1)</sup>を付けた形の「소영아」(92回)である。次いで多いのは韓国の夫婦間の呼びかけ表現である「여보」<sup>2)</sup>(56回)、姓「오」+名前「소영」の「오소영」(32回)の順である。一方、妻が夫を呼ぶ時の表現のバリエーションは18種で夫が妻を呼ぶ時より多い。使用率の高い順は、子供の名前「다미」+パパの意味である「아빠」の形の「다미아빠」(112回)、夫の名前「장수」+「-씨」<sup>3)</sup>の「장수씨」(82回)、そして第三番目は、性「최」+名前「장수」の「최장수」(25回)である<sup>4)</sup>。

このように、呼びかけ表現のバリエーションにおいても日本より、韓国のほうが圧倒的に多かった。

#### 4. 考察

ハリウッド映画の日本語版と韓国語版を比較した結果、韓国語版では夫婦間の呼びかけ表現が60%以上字幕として表現されたが、日本語版では20%以下であることが分かった。このように、オリジナルの英語版の呼びかけ表現が日本語版ではあまり翻訳されない理由として、井上(2005)は英語では名を呼ぶことで相手への認識を表示しながら会話するためにも、リズムカルパターンを構成するためにも呼称はコミュニケーションの資源となっているが、日本語はそのような機能がないからと報告している。

しかし、日本語とは文法や敬語システムなどがかなり異なる英語との違いは分かるが、文法や敬語システムなどが似ている韓国語に対してもこのような違いを見せるのはなぜだろうか。それは、韓国語の呼びかけ表現は英語のように会話文の中である種の役割を果たしているからだと考えられる。

本研究の結果に関しては、夫婦間の呼びかけ表現において、使用頻度が高く、バリエーションに関しても日本語より韓国語のほうがかなり豊富であることが証明された。日本人夫婦が相手に対して注意を喚起するときに呼びかけ表現を使うが、韓国人夫婦は注意喚起をするときにはもちろん、それに加えて、すでに会話をしているときにも常に呼びかけ表現を使い、しかもさまざまなバリエーションを用いる傾向があることが分かった。それは、問題提起ですでに指摘したように、コンテクスト化の合図(contextualization cues)という観点からすると韓国人夫婦は呼びかけ表現で自己の発言の意図

を示唆的に表現しようとするからではないかと思われる。コンテキスト化の合図というのは、Gumperz (1982)によれば、各文が先行あるいは後続する文とどのように関連付けられるのかを、話し手がシグナルし、それを聞き手が解釈する合図のことである。例えば、(1) は、「투명인간 최장수 透明人間チェ・ジャンス」(2006) のあるシーンで、妻は電話に出た夫に対して普段はあまり言わない性「최」+名「장수」の「최장수」で呼んでいる。それは、これから夫を非難するという妻のシグナルであって、夫にもそれが伝わっている。

- (1) 남편: 여보세요.  
 夫: もしもし.  
 부인: 최장수.  
 妻: チェ・ジャンス.

つぎの(2) のやりとりも「투명인간 최장수 透明人間チェ・ジャンス」(2006) 一つのシーンで、離婚届を出している夫婦が再び婚姻届を出しに区役所に来ている。

- (2) 남편: 여긴 왜 왔어? 다미엄마?  
 夫: ここはなぜ来たの? ダミオムマ?  
 부인: 왜 오긴? 혼인 신고 하러 왔지.  
 妻: なぜだって? 婚姻届出しに来たよ.  
 남편: 혼인신고?  
 夫: 婚姻届?  
 부인: 그럼 언제까지 이혼한 채 살려고 그랬어?  
 妻: いつまでも離婚したままにしとくと思ったの?  
 남편: 아니 고마워 여보.  
 夫: いや ありがとう ヨボ.

(…)

- 남편: 오소영. 이제 넌 내꺼다.  
 夫: オ・ソヨン. もうあんたは俺のものだ.  
 부인: 그래, 당신도 이제 내꺼야. 이젠 어디 도망 갈 생각 하면 안돼. 내가 있으랄 때까지 내 옆에 꼭 붙어 있어야 돼. 알았지?  
 妻: そう、あなたも私のものだよ。もう逃げようとしなくて私のそばにいつまでもいてね。分かった?



남편: 어 그럴게. 그럴게 소영아.

夫: うん そうする。そうする ソヨンア。

このシーンで夫は 4 回呼びかけ表現を使っている、しかも全部違うバリエーションである。区役所に来た理由を「다미엄마」で呼んで聞き、婚姻届を出しに来たと聞いて感謝して「여보」で呼んで感謝の気持ちを強調すると同時に尊敬の気持ちを表していると思われる。さらに、「여보」から姓「오」+名「소영」の「오소영」に変え、妻が自分の所有物だという事を言って、名前「소영」に「-아」を付けた形の「소영아」で妻のお願いを聞いてあげるとやさしく普段の呼びかけ表現で話していると思われる。

このように、韓国の夫婦間の会話では会話文の文頭や文中、または文末にさまざまな呼びかけ表現を使って話している。つまり、呼びかけ表現が自分の意図を明確に伝えるための手段として用いられているのである。

ところで、上の日本と韓国の TV ドラマを分析して、呼びかけ表現の使用について、その頻度とバリエーションの種類以外に、さらに日本語と韓国語の呼びかけ表現の構成に関しても異なるところが分かった。それは、韓国人は呼びかけ表現に形容詞をつけて一緒に使う傾向があることである。これは、特に手紙やメールを送る時にその違いがはっきり見える。

例えば (3) (4) はそれぞれ「今週、妻が浮気します」と「투명인간 최강수 透明人間チェ・ジャンス」で夫が妻に書いた謝罪の手紙の書頭部分である。

(3) は妻を普通に名前で呼んで手紙を書いているが、(4) はドラマ内で感謝や謝罪の場面でよく用いられた「여보야」を「いとしい」という形容詞と一緒に使っている。これは、呼びかけ表現で意図を明確にそして、より具体的に・積極的に伝える例である。

(3) 陶子へ

(4) 사랑하는 여보야  
 いとしい ヨボヤ

そして、夫の手紙やメールの例以外にも、日本のドラマには呼びかけ表現に形容詞がつけられた例は一つもない。しかし、韓国の場合は形容詞の使用がかなり見られる。例えば、同じ呼びかけ表現 (○○) でも、非難する前に用いられる場合は、「悪い○○」で呼んだり、依頼の発言をする前は「いとしい○○」で呼んだりする。

## 5. 結論

本研究で扱った映画やTVドラマからすると、日本人夫婦と韓国人夫婦の呼びかけ表現の使用傾向には確かにその差異が認められる。特に日本人夫婦は韓国人夫婦に比べて、会話中お互いに呼びかけ表現をあまり使わないし、使う呼びかけ表現のバリエーションも少ないことが分かった。日本人夫婦に比べて韓国人夫婦が呼びかけ表現をたくさん使う理由は、いろいろな側面から推測される。筆者はその中でも、韓国では呼びかけ表現が談話中、コンテキスト化の合図という機能を持っているのではないかと思って調べたところ、韓国人夫婦は会話の進行中常に呼びかけ表現を使い分けていて、呼びかけ表現を使い分けることによって話し手の気持ちや話の内容を聞き手に明確に伝えようとするのが分かった。

しかし、韓国のTVドラマがその韓国社会全体を反映するとは限らないので、今後はさらに従来では不十分であった社会的・心理的要素を基本的に考慮した上での実態調査が求められる。そして、韓国語会話では呼びかけ表現がコンテキスト化の合図の機能を果たすが、日本語会話では呼びかけ表現を用いる代わりにその機能を果たすほかの要素があると考えられる。例えば、韓国にはない終助詞や様々な非言語的要素を用いるのではないか。そして、上の夫の手紙やメールの例で明らかになったように、韓国人は呼びかけ表現に形容詞を使って、呼びかけ表現でより具体的に自分の意図を伝え、さらに発言の意図を明確にしようとするのではないか。

さらに、このような夫婦間の呼びかけ表現のコンテキスト化の合図という機能を比べる際に、その背景として現代の日本社会と韓国社会の夫婦関係の異同を考慮する必要がある。このような研究によって得られた結果は、日本人と韓国人の夫婦間以外の一般的な呼称表現にも当てはまるかどうか検討していく必要がある。こうした方向での調査は日韓両国の相互コミュニケーション行動分析の基礎となりうるはずだ。

#### 《注》

- 1) (人間や動物などを表す言葉の後ろにつけて)目下の人や動物などを呼ぶとき使われる格助詞(『표준국어대사전』を参照)。
- 2) 夫婦がお互い相手を呼ぶ言葉(『표준국어대사전』を参照)。
- 3) 依存名詞、(成年になった人の名字や姓名、名前につけて)その人を高めて呼んだり指したりする言葉で、大体同僚や目下の人に向かって使う(『표준국어대사전』を参照)。
- 4) 本文の例のほかに夫が妻を呼ぶ時は「너」「야」「다미엄마」「마누라야」「마님」「화상아」「빠리리야」「오소영씨」「오소영사모님」「사람」があり、妻が夫を呼ぶ時は「당신」「너」「인간아」「야」「놈아」「웬수야」「오빠」「새끼야」「자식아」「바보야」「등신아」「최장수씨」「최장수형사님」「여보」「다미술미아빠」がある。
- 5) 子供の名前(다미)+ママ(엄마)。

#### 《参考文献》

- Braun, F. (1988) *Terms of Address: Problems of pattern and usage in various languages and cultures*. Berlin; New York; Amsterdam: Mouton de Gruyter.
- Gumperz, J. J. (1982) *Discourse Strategies*. Cambridge: Cambridge University Press.
- 한영옥(2006) 「한·일 호칭에 관한 사회언어학적 연구」 중앙대학교.
- 홍민표(1999) 「한·일 부부호칭의 대조언어학적 연구」 『일본학보』 43, 301-317, 한국일본학회.
- 이옥련(1987) 「국어 부부호칭의 사회언어학적 고찰」 『아세아 여성연구』 26, 193-213, 숙명여자대학교.
- 이용덕(1998) 「한·일 양언어에 있어서의 배우자 호칭에 관한 연구」 『일본학보』 40, 93-106, 한국일본학회.
- 『표준국어대사전』 ([http://www.korean.go.kr/08\\_new/index.jsp](http://www.korean.go.kr/08_new/index.jsp)) .
- 韓 先熙(1994) 「韓国では夫をどう呼ぶか 一日本語との対照を交えて一」 『ことば』 15, 70-88, 現代日本語研究会.
- 韓 先熙(1996) 「韓日両国にける呼称対照研究 一夫が妻を呼ぶ時一」 『語文学研究』 4, 579-605, 祥明女子大学校語文学研究所.
- 洪 珉杓 (2007) 「日韓両国人の言語行動の違い 一夫婦呼称の日韓比較一」 『日本語学』 26, 80-92.
- 今村洋美(1996) 「呼びかけ表現」 田中春美・田中幸子編著『社会言語学への招待』, ミネルヴァ書房, 113-124.
- 井上逸兵(2005) 『ことばの生態系 一コミュニケーションは何でできているか一』, 慶應義塾大学出版会.
- 滝浦真人(2007) 「呼称のポライトネス “人を呼ぶこと” の語用論」 『言語』 36, 32-39.
- 米田正人(1986) 「夫婦の呼方」 『言語生活』 7, 18-21.
- 尹 秀美 (2007) 「日韓の夫婦間の呼びかけ表現 一先行研究の問題点と今後の展望一」 『論文集』 2, 85-96, 金沢大学経済学部社会言語学演習.

《調査資料》

- 「Fun with Dick & Jane」 (2005) DVD Sony Pictures Entertainment, Imagine Entertainment.
- 「내일의 기억 (明日の記憶)」 (2007) DVD 우성엔터테인먼트.
- 「ラストプレゼント ( 선물)」 (2005) DVD 킹레코드.
- 「今週、妻が浮気します」 (2007) DVD ポニーキャニオン.
- 「투명인간 최장수 (透明人間チェ・ジャンス)」 (2006) KBS(다시보기 동영상).

**Why are address terms uttered more frequently and more variously in a conversation between husband and wife in Korea than in Japan?**

— From a point of view of contextualization cues —

Yoon Sumi

MA student of Kanazawa University

**Abstract**

In a conversation between husband and wife, Korean use address terms more frequently and more variously than Japanese. In order to explain the conversational difference between Korean and Japanese, we supposed that the frequent use of various address terms in Korean is closely related with “contextualization cues” to express intentions of the speaker to the hearer (Gumperz 1982). The hypothesis was tested by investigating frequency and variety of occurrence of address terms in conversations between husband and wife 1) in the translations a Hollywood-film into both languages; 2) in a Japanese film and its translation into Korean and vice versa; 3) in a Japanese original drama and a Korean original drama. The results of the investigation verified the hypothesis that address terms in Korean serve as contextualization cues to specify functions of utterances.

address terms, Japanese, Korean, contextualization cues, marriage couple